

沖大幹博士を国際連合大学上級副学長に任命

2016年10月3日、東京 — 国連大学は、学長のデイビッド・マローンが沖大幹博士を次期国連大学上級副学長に任命したことを発表いたします。沖博士は2016年10月1日付けで新上級副学長に着任し、この職において国際連合事務次長補を務めます。

沖博士は、地球規模の水文学および世界の水資源の持続可能性に関する研究の第一人者です。現在は東京大学生産技術研究所(IIS)教授として、水文学および水資源工学の研究グループを統括しています。

沖博士はこれまで、東京大学生産技術研究所(IIS)助教授(2003-2006年)、文部科学省大学共同利用機関(当時)総合地球環境学研究所助教授(2002-2003年)、そしてIIS助教授(1997-2002年)、講師(1995-1997年)、助手(1989-1995年)を歴任。また2005年から2006年には、内閣府総合科学技術会議事務局(当時)の上席政策調査員も務めました。

国連大学学長のデイビッド・マローンは、「沖博士を国連大学にお迎えすることができ、大変嬉しく思います。東南アジア、とくにタイでの水問題に関する沖博士の研究リーダーシップは、国連大学が全体として重点的に取り組んでいるグローバルな経済と社会の開発問題と合致しています」と述べています。

沖博士はこれまで10冊以上の本を出版したほか、査読付き学術誌に論文を220本以上発表しています。また、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次および第5次評価報告書において、それぞれ代表執筆者、統括執筆責任者を務めたほか、第8期ユネスコ国際水文学計画(IHP)の戦略計画の策定では、作業部会メンバーとして貢献しました。加えて、宇宙航空研究開発機構の地球環境変動観測ミッションの第一期水循環変動観測衛星(GCOM-W1)サイエンスチームのリーダーも務めています。

沖博士は東京大学で工学の博士号を取得しています。

またこれまで、出版文化賞(2014年、土木学会)、生態学琵琶湖賞(2011年、日本生態学会)、日経地球環境技術賞(2008年)、科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(2008年、文部科学省)、日本学士院学術奨励賞(2008年)、日本学術振興会賞(2008年)など、主要な賞を多数受賞しています。

沖博士は任命を受け、「国連大学の一員として、社会、経済そして環境面での持続可能性の発展にグローバルに貢献できることを楽しみにしています。国連大学上級副学長として、東京大学を初め日本およびアジアの学術機関と国連システム間の連携の強化、学際的研究の推進、持続可能な開発目標の前進への寄与、そして国連大学の名声の向上に努めたいと思います」と意気込みを示しています。

沖博士は、2008年7月1日から2016年6月30日まで国連大学上級副学長を務めた武内和彦博士の後任です。

問い合わせ先

沖大幹国連大学新上級副学長に関するより詳しい情報やインタビューをご希望の報道関係者の方は、国連大学広報部広報担当の西川までご連絡ください(+81 3-5467-1298、nishikawa@unu.edu)。

国連大学について

国連大学は、緊急性の高い地球規模課題に関する政策関連研究を行う学者・研究者の国際的共同体であり、専門大学院教育と能力育成、および知識の普及に取り組んでいます。国連大学は国連システムのシンクタンクとして機能し、東京に置かれた国連大学本部が世界各地の研究所およびプログラムのネットワークの運営・取りまとめを行っています。

<http://jp.unu.edu/>.